

























泉芳朗詩碑

わたしはただ一介瘦身の無名詩人  
樹間に湧く無量の感に涙しほり  
地に漬つる落葉や雑草にも  
無情の声を呑み  
天かける白雲に  
うたた民族流離の歌をさく  
よしや骨肉ここに枯れ果つるとも  
八月の太陽は  
燦として 今 天上にある  
されば 膝を曲げ 頭を垂れて  
奮然 五体の祈りをこめよう  
祖国帰心  
五臓六腑の矢を放とう  
昭和二十六年八月（詩人泉芳朗の墓所）  
泉芳朗





























































































































































































